

あなたをおいて、誰のところに行きましょう

主任司祭 吉池 好高

「行きましょう。主の平和のうちに」。派遣の祝福を受けたわたしたちは、ミサを締めくくるこのことばによって、それぞれの生活の場へと遣わされます。「主よ、あなたをおいてだれのところに行きましょう」。わたしたちを遣わしてくださる主は、わたしたちに先立って、ご自分がそこにおられる場へとわたしたちを遣わそうとしておられるのです。わたしたちの行く手は、イエスと出会って、その御後に従ったイエスの弟子とされた者たちの道となるのです。「わたしは世の終わりまでいつもあなた方とともにいる」と言われた主の御後に従う道となるのです。イエスがともにいてくださるところ、そこにはイエスよってもたらされる平和があります。「わたしはあなた方に平和を残し、わたしの平和をあなた方に与える」。聖体拝領のたびごとにこのように語りかけてくださる主のみことばに励まされて、主がもたらされた平和を告げるために旅立ちましょう。

それが平和の主であるイエス・キリストに付き従う弟子としてのわたしたちの使命なのです。「父よ、彼らをお許してください。自分が何をしているのか知らないのです」。十字架の上でご自分を十字架に釘付けにした者たちのためにこのように祈られた主の御ところがわたしたちの心にも満ち溢れてゆきますように。全能の父である神の御力によって死者のうちから復活された主イエスキリストのうちみなぎる聖霊の愛の息吹を受けて、遣わされた場へと旅立ちましょう。

旅路の糧、天のマンナとなってわたしを養ってくださる主に力づけられて、今日も新たに旅立ちましょう。「いしずえ」の紙面をお借りして、ミサの式次第に表明されているわたしたちの信仰を味わってまいりました。ミサこそが、わたしたちの信仰の中心です。多忙な生活に追われ、絶えず動揺しているわたしたちの信仰はこの中心に支えられてかろうじて平衡を保つことができます。「主よ、あなたは永遠のいのちの糧。あなたをおいて誰のところに行きましょう」。聖体拝領のたびごとに表明するこの信仰告白が、わたしたちの心からの決意表明となりますように。この信仰告白にわたしたちの信仰のすべてが掛かっているのです。